

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん (1号店)		
所在地	羽島市上中町708-1		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果市町村受理日	令和3年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400515-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の施設は清潔感があり、笑顔の溢れる、アットホームな施設です。コミュニケーション能力が高く、利用者、職員の信頼関係も良好で、皆が生き生きとしています。毎月季節に応じた行事を開催している為、季節を感じると共に、利用者同士の交流もさらに深める事が出来ます。施設内も季節事に飾りをかえ、その作品も利用者と職員一緒に作成したものを展示しています。利用者個々の出来る事を伸ばす為、毎日の役割を決めて達成感を味わって頂き、自信にも繋げています。職員皆が誇りを持って働いており、利用者に感謝、そして職員同士素直に感謝を伝え合える「ありがとう」でいっぱい施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域及び医師・看護師・薬剤師等の多職種と協働しながら、利用者へ最良の支援が提供できるよう努めている。職員の熱意ある温かな支援は、利用者と家族の安心と信頼に繋がっている。職員は、利用者が日々穏やかに生活できるよう、1号店と2号店それぞれの利用者の状態にあわせ、きめ細やかな配慮をしながら、共用空間と居室の整備を行っている。コロナ禍の今、利用者の生活に様々な制限が生じているが、リモートによる面会、事業所の庭や畑などを活用した活動、施設内での気分転換方法等、工夫をしながら支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1号店)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とともに「スタッフ行動規範10か条」を朝礼時に唱和し全職員に周知出来るようになっています。職員、利用者、わおんに関わるすべての人の幸せの為に行動することを実践しています。	法人理念の下、良質な支援の提供に努めている。理念及びスタッフ行動規範10か条を書いたクルドを各自携帯している。1日2回の申し送り時に唱和し、日々の支援を振り返りながら、理念に基づいた支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会の夏祭りや上中町の文化祭などに参加しています。現在は新型コロナ感染予防のために行動自粛もしていますが、中でも予防に努めての交流を模索し実践しています。	コロナ禍にある為、地域行事への参加は自粛しているが、感染予防対策を徹底し、周辺の散策や朝市に出かけ、地域との触れ合いを継続している。近隣住民の好意で、野菜や花などが届くことも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「わおん爆笑劇団」を創設し社長自ら演者となり、公演しています。依頼があれば羽島市内に限らず公演し認知症の布教活動に努めています。現在は新型コロナにより自粛を余儀なくしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「地域福祉を考える会」と称し民生委員、区長、議員経験者、老人会会長などの参加により地域全体の意見交流の場となっています。そこでの意見をサービスの向上に活かし社会資源の範囲拡大にも役立っています。現在は新型コロナにより開催を自粛している。	感染予防対策として、運営推進会議は中止している。現在は、事業所内で行った会議の報告書、手紙、事業所新聞をメンバーに届けるとともに、電話やメールによる意見交換を行いながら、それらを運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では高齢福祉課の方や包括支援センターの方をお招きし運営内容をお伝えし意見交換しています。行政からのメールを通し介護保険の動向や実情把握に努めています。	行政とは、日頃から事業所の活動や空室状況について報告したり、電話やメール等で情報交換を行っている。職員は、市主催のZOOMIによる研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のヘルパー会議にて身体拘束についての話し合いを行っています。また、勉強会も行っており身体拘束についての正しい知識を学んでいます。その知識を活かし玄関の開放に努め、安全との共生を常に模索しています。	同法人事業所と合同で、身体拘束についての研修会を開催するなど、法人全体で拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。転落の危険回避の為、家族の承諾を得た上で4点柵を使用している事例があるが、毎月開催の安全衛生委員会や、家族、医療従事者と検討を重ねながら、見直しを含めて支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護技術委員会主催の社内研修の中で高齢者虐待についての知識を得ています。ヘルパー会議での議題にも挙げ虐待防止に努めています。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業、成年後見制度を利用している方はみえませんが、ヘルパー会議での勉強会を通し知識を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は一つ一つの項目において丁寧な説明を心掛けています。利用者様、家族様等の不安、疑問においては傾聴する姿勢を大切にすることで安心して頂き納得されるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族様宛にホームだよりだけでなく個別の写真入りのお手紙を送付し利用者様の様子を細やかに綴っています。面会や担当者会議の際に(感染症対策を十分に取り)ご意見を頂き、運営に反映しています。	毎月、家族宛てに新聞とホーム便り、利用者の状況を書いた手紙を郵送している。職員やケアマネジャーによる細やかに報告された便りは、家族の安心感につながっている。電話やメール、面会時等にも家族の意見を聴き、支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヘルパー会議や各委員会にて職員の意見交換や提案を行っています。毎月のリーダー会議にて、管理者や代表に伝え、改善に役立ており、緊急性の高い事案はメールにて確認しスピーディーに対処、解決に当たっています。	日頃から、職員同士及び管理者との意見交換を行っている。また、職員は、ヘルパー会議や安全衛生委員会、介護技術委員会、業務改善委員会、レク向上委員会など、いずれかの委員会に所属しており、意見や提案を表出できる場がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度の導入により画一的な給与設定ではなく個々の努力等も勘案している。また、社長との面談により個々の職場環境、条件について話し合う場が設けられ、向上心を持って働けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標管理制度を導入し、実現可能な目標を自ら設定し目標を明確化することで日々の業務にやりがいを持つようになっている。目標をリーダーと管理者が共有し実現に向けてサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍にあり交流を自粛しているが、介護感動事例発表委員会の場では他事業所と協同してサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の話を傾聴する姿勢を大切にして安心して頂けるよう努めています。雑談の中から要望や困りごとを抽出できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様はグループホームがどういう所か分からない場合もあり、丁寧に説明させて頂いています。家族様が困っていること、不安なことを一緒に解決する姿勢を大切にして支援しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の不安や困り事から必要なサービスを提案し、支援出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯等、日常生活の様々なことを一緒に行っています。本人様は人生の先輩であり教えて頂くことも多く、尊敬の念を持って接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にあり本人様にとって家族様はかけがえのない存在であることを痛切に感じています。感染症対策を十分に行い、面会等を行い「絆」を大切に支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の為に行動自粛は余儀なくされてはいるが、馴染みの人との関係性が途切れないよう支援に努めています。	コロナ禍にある為、面会を制限しているが、代替策としてビデオ通話を活用し、家族等との交流支援を行っている。複数の家族との同時面会も可能である事から、これまで会うことが難しかった遠方の家族とも、リモート面会ができ、利用者と家族等から高評価を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は全員がリビングで過ごしており、利用者様が自然に集う場となっています。レクリエーションや共同作業を通じてより関係性が良くなるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからもご家族様からお電話を下さったりお手紙のやりとりがあります。そこからわおん内で再びサービス利用される方もおみえになります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前、入所時の面談から、また日常の雑談から本人様の暮らし方の希望、意向を把握しています。困難な場合はご家族様からの聞き取りや表情、動作も大切に把握に努めています。	職員は、入居時に得た利用者の情報を、生活習慣・生活歴等を記録する専用シートに記入している。入居以降は、日々の支援で得た新たな情報をシートに追記し、職員間で共有しながら、支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の引継ぎの際に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、介護支援経過、業務記録を活用し職員全員が情報共有出来るようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を行い、本人様、家族様等の意見を反映しています。申し送りやヘルパー会議時にケアプランについても話し合うことで職員全員の意見も反映しています。	担当職員とケアマネジャーが、家族の意見や要望を面会時やリモートで確認し、立案時に反映させ、介護計画を作成している。本人のかかりつけ医、協力医や訪問看護師の意見や助言を反映させた介護計画を家族も確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護支援経過にて個別の記録をしています。また、申し送り時にケアについても話し合い、情報共有することで介護計画にも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナ禍にあり、自由に出掛けられない環境にありますが、それぞれの状況や希望に出来る限り対応させて頂いています。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントにてその方に必要な社会資源の把握に努めています。地域の方との交流も多く、繋がりを持って生活が出来るように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけ医がいる方は継続して主治医として選択しておられます。その為、入所前からの状況を医師が把握しており、情報共有が来ています。訪問看護、かかりつけ医の往診を受け適切な医療が受けられるよう支援しています。	利用者と家族の希望で、かかりつけ医または協力医を選択することができ、定期的に医師や訪問看護師の往診を受けている。事業所には、看護師が常駐しており、緊急時にも、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師には日常の様子を含め些細な変化も細やかに伝達している。また、24時間対応とし、急変時の指示も含め適切な対応が出来るよう努めています。訪問看護師は月に2回訪問し健康相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病棟との情報共有、医療サービスセンターへの相談を積極的に行っています。必要であればカンファレンス、共同指導も開催し早期に退院出来るよう努めています。また衣類等を届ける際にも健康状態の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の対応について事業所の方針を説明し同意を得ています。状態が変化した場合は、今後の意向について話し合いを重ねています。医療行為が必要な場合は利用者様と家族様の不安のないよう病院移行の支援も行っています。	重度化や終末期について、利用者と家族の意向を確認している。終末期ケアの学習会も開催している。事例検討で支援内容を振り返り、課題と対策を明確にし、職員の不安軽減に繋げている。訪問看護師、薬剤師などの参加協力もあり支援技術の向上に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の看護師による緊急時対応研修が年1回行われ、急変時の対応について実践的な訓練を行っている。また、情報シートを作成したり、バイタル器具を車の運転時に持って行くなどの備えをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災、地震、夜間想定も含め避難訓練を行っている。消防署立ち合いの中、実際の状況さながらに緊張感を持っての訓練が行えている。近くの製作所に緊急時の協力をお願いしている。	年2回、火災や地震を想定した避難訓練を行っている。近隣にある製作所には、災害時における協力を依頼している。ホームは、木曾川に近い平屋建てである為、水害時の避難方法について、以前より検討中の課題点がある。	利用者と職員の安全を確保するため、ハザードマップを確認の上、水害時等の避難経路・避難方法、地域の協力も含めた連絡網・協力体制等、具体的な対応策や行動計画の作成に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から自尊心に配慮した言葉掛けやケアの実践に努めています。また、家族様からの聞き取りや生活歴を知ることによって尊敬の念を持って会話をしています。居室に入る時には声掛けしプライバシーにも配慮しています。	利用者一人ひとりの尊厳を守り、言葉遣いにも配慮するよう心がけている。夜間の支援時には、利用者と一緒に過ごすための時間を作り、利用者の思い、不安などを傾聴し、精神的に安定できるよう支えながら、その人らしく過ごせるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持つことで、その方の考え方や嗜好を職員全員が把握することは勿論、意思決定しやすい環境作りにも努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、おやつ等の時間は決まっていますが、その時間に部屋で過ごしたい方もおみえになります。その方の意思を尊重した言葉掛けや支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様からの聞き取り等から「その人らしさ」が感じられる服装を心掛けています。行事では「ハレの日のおめかし」を楽しむ日を作ったり、散髪も職員が行い一人ひとりの雰囲気大切に髪型にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「みんなで食べると美味しいね」と言われる方が多く、リビングでみんな一緒に食事をしています。食事作りも職員が担当しており、時には食べたい物を聞いて献立を決めることもあります。食事の準備、片づけ等、出来る方とは一緒に行っています。	感染予防対策として、外食は控えている。ホームで外食気分を体感してもらえるよう、夕食パーティで好みの食事を提供したり、「わおん喫茶」と称して、喫茶店気分を味わえるメニューを作成し、好みのメニューを選んでもらうなど、楽しい食事時間となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録させて頂き、きちんと摂取されているか確認しています。食事形態もその方に合わせて提供しています。少しずつ飲まれる方、飲む容器にこだわりのある方等、工夫し摂取量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実践しており出来ない方にはお手伝いもしています。希望のある方には歯科医の往診もあります。職員も指導させて頂き、口腔ケアの大切さを実践で活かしています。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄のパターンに合わせてトイレ介助やオムツ交換をしています。介護技術委員会で介助方法やオムツパット等の変更を話し合っています。また、自尊心に配慮した言葉掛けを行い自立支援をしています。	利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援に努めている。介護技術委員会では定期的にケア方法の見直しを行っている。日中は、トイレでの排泄支援に努め、夜間は利用者の状態に応じて、おむつ、パット、ポータブルトイレなどを併用しながら、支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まずは個々の排便パターンを知ること、日中は体操や運動を日常的に行うこと、食事の工夫、水分摂取に努めています。また朝にトイレに座って頂くことで自然排便が出来るよう促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回あり、一番最初に入りたい方、シャワー浴だけが良い方等、希望に合わせて対応しています。湯船にゆずを入れ季節感を感じて頂いたり時には水風船を浮かべたりと入浴に楽しさを感じて頂けるよう支援しています。	週3回入浴を基本に、利用者の希望を取り入れながら入浴方法や時間を調整している。ゆず湯や水風船等の遊び道具を活用するなど、利用者がリラックスして入浴できるよう工夫している。入浴支援は、1対1のコミュニケーションの時間として大切に捉え、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の申し送り等で不眠であった方は昼寝の時間を長めにしたり、体調が優れない方は休息して頂いたりと臨機応変に対応させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師との連携だけでなく、薬剤師とのコミュニケーションも日常的にあり、薬についての知識を深めることが出来ている。服薬ミスのないよう服薬欄を作成し服薬した職員が記名チェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好、強みを活かしたケアプランに基づいてケアを実践しています。職員は労いの言葉を必ずかけることで役割の喜びを感じて頂けるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、新型コロナ対策のため制約はありますが、ドライブの好きな方の希望に添って支援しています。時にはその方のゆかりの地に行き、懐かしんでおられました。	コロナ禍にある為、外出制限はあるが、行政の感染予防対策のレベルに応じ、外出回数、場所、方法を調整している。外出が可能な場合には、家族や職員とのドライブなどを行っている。事業所の広い庭を散策したり、周辺を散歩するなど、外気に触れられるよう工夫している。	

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方にはお金を所持して頂いています。現在はコロナ禍にあり買い物は自粛していますが、チラシ広告を見て欲しい物があれば買い物代行を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で家族様と話しが出来るように仲介役になったり、手紙に関しては麻痺により字が上手く書けない方の代筆をしたり、より良い関係が継続するお手伝いをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年2回の大掃除も含め共用スペースの掃除には力を入れている。整理整頓にも心掛けることで心地良い空間作りを心掛けている。玄関やホールの壁には季節感のある壁飾りなどを利用者様と一緒に作り飾っています。	建物中央にある居間は、利用者が安全に心地よく過ごせる空間作りに努めている。大きな窓があり、明るく風通しも良い。利用者が作成した季節の装飾品や絵を飾り、利用者だけでなく、家族も楽しめるよう工夫している。また、ホームに居着いた猫は、利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは広く、銘々自由に過ごされています。食事が終わると自然にテレビ前に移動され仲よし同士がお話されたりしておられます。車椅子の方もいるため無駄な物は極力置かず、移動しやすい居場所作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し、お家で使い慣れた物やプレゼントを置く等、心地よく過ごして頂ける居室空間にしています。	利用者と家族、担当職員が相談しながら、居室の家具の配置や飾りつけなどを行い、利用者の個性を尊重しながら、自分らしく穏やかに暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かり易く書き、示すことで行きたい時に行ける工夫をしています。椅子も一人で動きやすい物にしたり無駄な家具を置かないことで安全かつ自立した生活が送れるようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515	
法人名	有限会社 ワオン	
事業所名	グループホーム ワオン (2号店)	
所在地	岐阜県羽島市上中町中705-3	
自己評価作成日	令和3年8月19日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の施設は清潔感があり、笑顔の溢れる、アットホームな施設です。コミュニケーション能力が高く、利用者、職員の信頼関係も良好で、皆が生き生きとしています。毎月季節に応じた行事を開催している為、季節を感じると共に、利用者同士の交流もさらに深める事が出来ます。施設内も季節事に飾りをかえ、その作品も利用者と職員一緒に作成したものを展示しています。利用者個々の出来る事を伸ばす為、毎日の役割を決めて達成感を味わって頂き、自信にも繋げています。職員皆が誇りを持って働いており、利用者に感謝、そして職員同士素直に感謝を伝え合える「ありがとう」でいっぱい施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2号店)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と社員行動規範が、書かれているクレドをほぼ全員のスタッフが持っている。朝礼の時に読む事で理念と規範を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ禍で交流、地域の夏祭りが開催出来ていない。利用者様個人で、絵手紙での交流などは、している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、コロナ禍で開催出来ていない。コロナが、治まってきてから羽島市の他の事業所と協力し「感動事例発表会」などを再開していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ禍で開催出来ていない。活動報告などは、している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在は、コロナ禍で開催出来ていない。コロナウイルスの感染状態を見ながら再開していく予定。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけている。ケアを実現するために、社内研修やヘルパー会議で話し合いをしている。施設の玄関は、施錠しないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議や社内研修で、取り上げて確認している。利用者様に対しての言葉使いも気をつけている。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度の対象者は見えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分に話し合いをさせて頂いて、利用者様と家族様に理解・納得をして頂いてから契約させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は、コロナ過で運営推進会議は開催出来ていませんが、報告をさせて頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回リーダー会議を開催して、事業計画の報告、意見交換をしている。各事業所の意見交換もしている。会議の内容は、ヘルパー会議にも報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが、意見が言いやすい環境に心掛けている。個々の個性を活かせる環境にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、委員会を作成し研修をしている。新人スタッフの働きやすい環境にして指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過で、現在は、他の事業者と交流会が出来ていない。コロナが、治まり次第開催を検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話を大切にしている。その中から、困っていることや要望をお聞きして信頼関係を築いている。会話が難しい方は、ご家族に入ってもらったり、触れ合うことで、信頼関係を構築できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は、今までの介護で不安を抱えている。会話の中からお家族の思いをお聞きして要望を受け止めている。入所時は特に小まめに連絡を行い、安心して頂ける関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族、スタッフとの面談場所を設け、要望やサービスをお聞きする中で、必要とされるサービスを見極め、支援を進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人は人生の先輩であり、教えていただく事が多い。尊敬の念を持ち、助け合いながら支援させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人は、ご家族を心の支えにしている。本人とご家族の絆を大切に、ご家族にしかできない役割や協力を得ながら、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで馴染みの場所に行ったり、ご家族や知人の訪問時にはゆっくりできる場所を設けている。年賀状、絵手紙のやり取りや、散歩時はご近所の方と交流して支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、認知度、病気を理解した上で、双方のコミュニケーションがうまくいくように手助けしたり、外出やレクリエーションを通して、利用者同士が支え合えるような関係を築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が他界後も、ご家族との関係が続くことがあり、入院後も相談を受けることがあります。必要に応じて、いつでも相談、支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の思いや希望を把握している。会話が困難な方は、ご家族から生活歴や趣味を伺い表情やしぐさから感じ取っている。会話はプライバシーに配慮し、時間や場所に配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人にお聞きしたり、ご家族には専用の用紙に記入して頂いている。以前利用していたサービス事業所からも状況をお聞きして生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態は、毎日の介護記録や申し送りで共有している。有する力等の現状の把握は、ヘルパー会議で話し合い、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族に希望をお聞きしている。三ヶ月毎に担当者がモニタリングを行い、意見やアイデアをスタッフで話し合い、課題やケアのあり方について主治医、関係職種の方からもお聞きし、ケアマネが現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子や言葉、気づきや工夫を介護記録に記入している。さらに、申し送りやヘルパー会議で職員間の情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを大切にしており、必要なサービス事業者を導入したり、畑仕事を一緒にしたり、ビデオ通話をしたり、図書館に行ったり本人の要望や表情を察して提案して、柔軟な支援に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人に必要な地域資源を提供を心掛け、図書館に行ったり、エステを受けられたり、本人が心身の力を発揮して豊かな暮らしを楽しむように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が望むかかりつけ医に診て頂いている。信頼関係が出来ており、入所前の情報を把握しているので、本人も安心があり、施設ともスムーズな情報共有や連携が築けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事や異変があった時、主治医や事業所内の看護師に相談、対応できている。訪問看護も月2回の往診や24時間の電話対応ができ、適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人との面会をこまめに行い、担当医や看護師と面談し状況把握に努めている。退院時はカンファレンスに参加して、かかりつけ医との連携をとっている。病院主体の研修会に参加していたが、今はコロナ禍でできていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りができる事をお伝えしている。また、本人の身体の変化に合わせて、事業所のできる事をお伝えしている。本人やご家族の希望を尊重して終末期のあり方を話し合っている。看取り研修を行い、チームケアの再認識ができています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全衛生委員会の看護師から研修を受けている。緊急時マニュアルが置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ過で、現在は消防署の方をお呼びして避難訓練は出来ていないが、自主的に避難訓練をしたり、災害備蓄品の点検をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を尊重し尊敬しており、言葉使いに気を付けている。また、誇りやプライバシーに配慮した声掛けをしている。申し送り時に社内規範を読み上げて、一人一人が意識を持てるように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との関係作りを良好に築き、話しやすい環境を作っている。担当者会議や夜間、浴室と個別で対応できる場所も活用している。自己決定が難しい方には選択制にしたり表情から希望を読み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人一人のペースを大切に思っており、利用者からの発信や希望に耳を傾け、その人らしい生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人とヘアスタイルを決めてスタッフが毛染めやカットをしている。居室に鏡を置き服のコーディネートや、お化粧をさせてもらっている。マニキュアをつけたり、エステを受けておしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや希望をお聞きして、普段の食事に活かしたり、夕食パーティーを開いて食の楽しみ作りを提供している。野菜作りや下ごしらえ、後片付けまで利用者のできる力を活かしながら一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎日記録している。嚥下状態に合わせてとろみをつけている。お茶が苦手な方には、お好きな物を提供し、水分量が確保できるように支援している。夜間は居室にお茶を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に応じて見守りや仕上げ磨きをしたり、口腔状態に合わせて歯ブラシやスポンジ、ウエッティと使い分けている。歯科医との連携があり、いつでも相談できる環境ができています。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの声掛けをしたり、尿意のある方には教えてもらい介助している。手すりを上手に活用して、本人の力を借りて介助している。本人の希望を聞きながら、夜間はポータブルトイレや尿瓶を提供している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になると、普段とは違う表情や行動が現われる為、乳製品や果物の摂取、マッサージ、運動、散歩を心掛け、主治医との連携で薬の調整をして、自然に排泄できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本週3回と決まっているが、畑の後や排泄後等希望に沿っていつでも入れる環境が整っている。利用者の要望をお聞きして、楽しい会話をしたり、浴室外で見守りしたり、個々に沿った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化、外出や入浴の後等は状況に応じて休息したり、夜間は安眠できるように、温度調節、話の傾聴、マッサージやハグをして気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の希望、ご家族、主治医と相談して必要最低限の薬を提供している。スタッフは副作用を理解しており、初めての服用に関しては様子の確認をしている。またダブルチェックを行い飲みこみも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、調理の下ごしらえ、裁縫、箱作り、マッサージ、作品づくり、絵手紙と生活歴から一人ひとりの得意とされるものを見つけて、喜びのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望の場所やご家族と一緒にピクニック等出掛けてたが、今はコロナ禍の為、人が少ない場所やご家族の協力を得て、ご自宅への外出、ドライブをしている。わおん街道のウォーキングや散歩をして、近所の方と会話できる環境を作っている。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布は職員が管理している。今まで一緒に買い物に行っていたが、今はコロナ禍の為、本人に希望を聞いて購入している。ご家族がお小遣いを持って見えた時は、本人にお伝えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したり、遠方に見えるご家族とビデオ通話で顔を見て会話できる環境を作っている。絵手紙のやり取りやご家族に手紙を書いてもらい、会えなくても安心できる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食後は利用者と楽しく掃除をしている。ベランダには季節の花があり、壁には手作りの作品、玄関には利用者の作品を飾り、来所者に一番に見てもらっている。今は猫がいるが、セラピー犬がいた時はソファと一緒に座り、利用者の癒しになっていた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの前にテーブルを置き、団らんができる工夫をしている。ベランダ前に畳を置き日向ぼっこや庭を見てくつろげる場所を作っている。利用者が集中して般若心経を書いたりできる空間も作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染のものやプレゼント、ご家族の写真や本人の作品を飾り、心地よく生活できる空間作りをしている。体調に合わせて、ベッドの位置を移動して、移乗や移動、見守りができるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の必要なところに手すりを設置したり、活用方法を伝えている。また、ポータブルトイレも日中と夜間と配置の場所を変えて、自立して生活できるように工夫している。		